

雲仙岳火山活動状況*

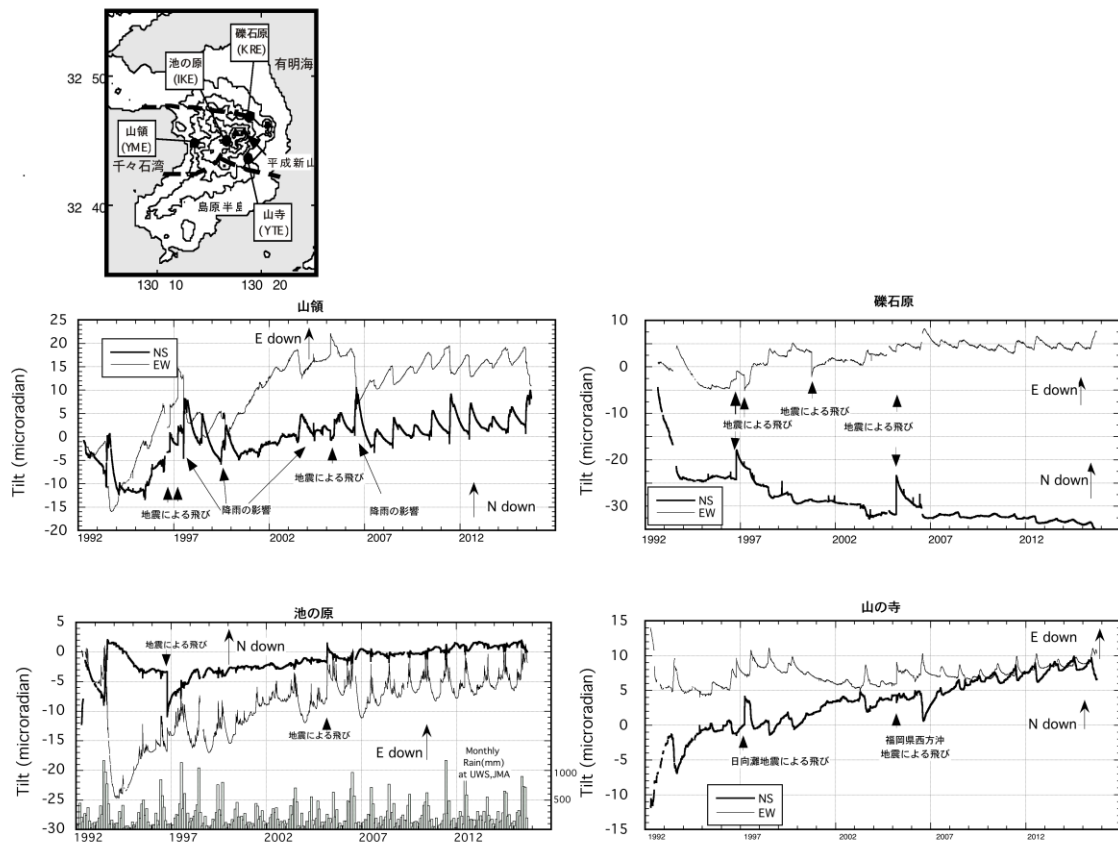
Volcanic Activity of Unzen Volcano

九州大学大学院理学研究院 地震火山観測研究センター
Institute of Seismology and Volcanology, Faculty of Sciences, Kyushu University

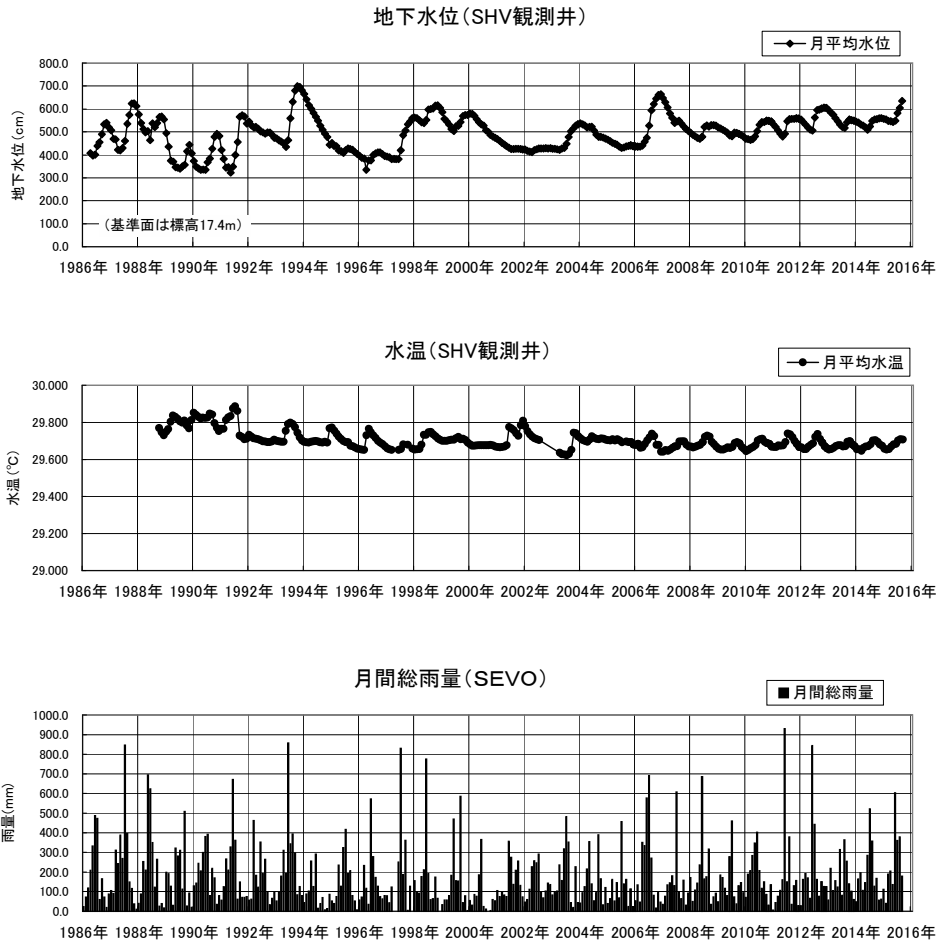
この期間、雲仙火山の火山活動は静穏ではあったが、普賢岳直下の小規模な地震活動がみられた。

第1図に雲仙岳周辺における傾斜変動の観測結果を示す。傾斜計は各点とも坑井内、深度約100mに埋設された倒立振子タイプである。降雨や地震による影響が多少現れているが、特に火山活動に関連すると思われる変動は記録されていない。

島原観測所温泉観測井(SHV 観測井)における水位・水温・雨量の連続観測および温泉成分等の繰り返し観測(1ヶ月に1度)の結果を示す。SHV 観測井は、眉山東麓に位置するセンター構内(標高47.9m)に設置されている。深さは365mで、孔径は、上部(0~100m間)が200mm、下部(100~365m間)が75mmである。全長にわたり、ケーシングパイプが挿入されており、255~355m間にはストレーナーが配置されている。水圧式水位計を地表から30.5m、水晶温度計を329mの深さに設置している。泉質はアルカリ土類金属(Mg・Ca)を含むナトリウム-炭酸水素塩泉で、硫化水素(H₂S)の含有はなく、性状は無色・透明・無臭である。一般細菌・大腸菌・硝酸態窒素及び亜硝酸態窒素は検出されない。設置当初から現在まで、浅部生態系の影響を受けない水質を維持している。第2図に水位・水温・雨量の連続観測結果を示す。地下水位は、時差2ヶ月・半減期12ヶ月の実効雨量(雲仙岳)と正の相関が強いことがわかっている(回帰期間:1998年1月~1999年12月)。水温は1988年10月~1991年8月の期間にやや高い値を示しているが、その後はほぼ安定している。第3図に2003年9月以降の温泉成分等の測定結果を示す。気象の影響などに伴う変動が見られるだけで、火山活動に起因すると思われる変動はない。

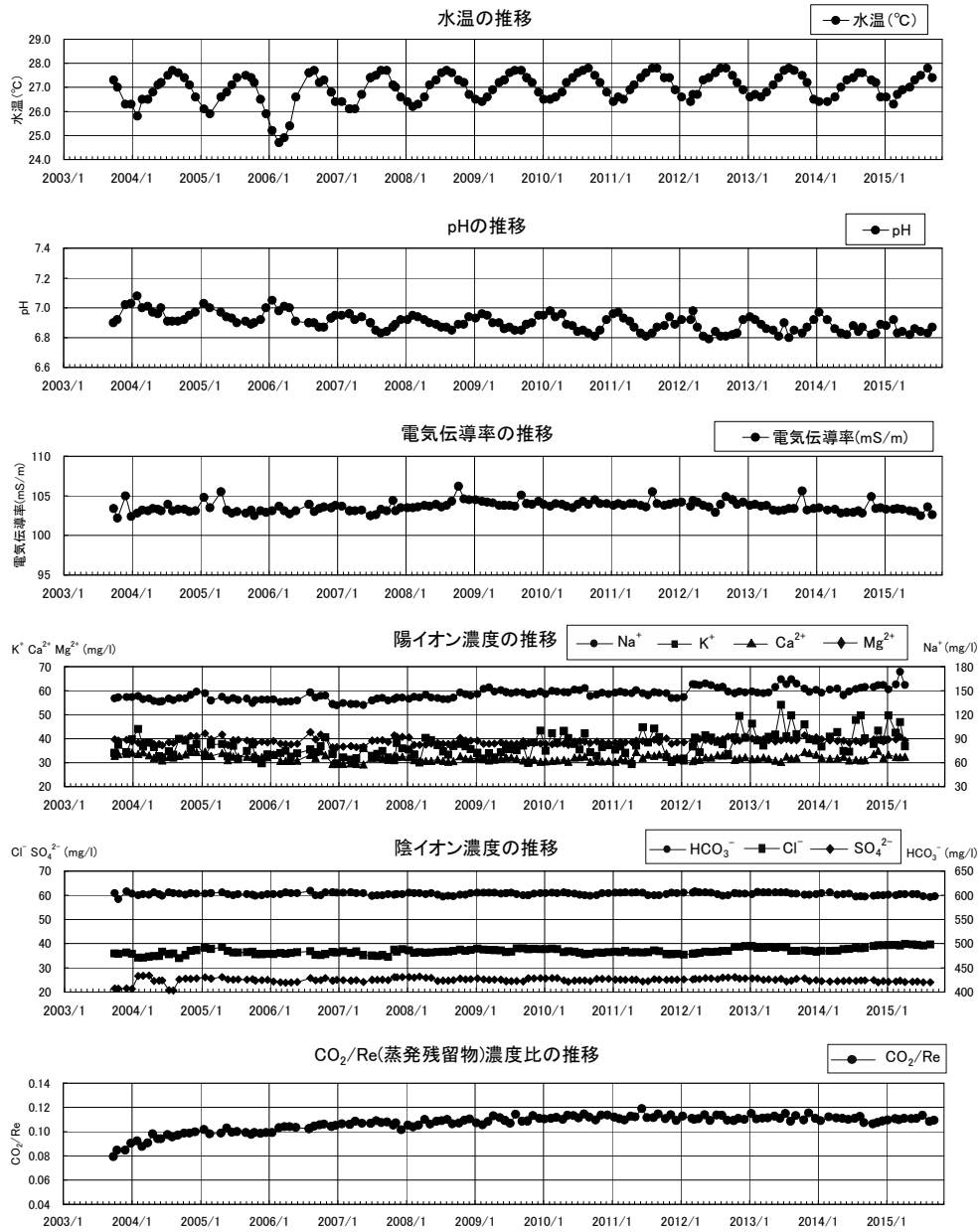


第1図 普賢岳周辺の傾斜計配置図と傾斜変化（日平均値）。
 Fig 1. Distribution of tilt-meters around Fugendake and the daily means of the crustal tilt data.



第2図 SHV 観測井における月平均水位・月平均水温・月間総雨量の観測結果。2005年5月以降の月間総雨量は気象庁アメダス島原を使用。

Fig. 2 Results of monthly-averaged water level and water temperature observed in the SHV borehole. Monthly total rainfall at the SHV borehole site is shown in the figure. Data of rainfall since May 2005 is from the JMA AMeDAS Shimabara.



第3図 SHV観測井の水温・pH・電気伝導率・主要化学成分濃度・CO₂/Re(蒸発残留物)濃度比の推移

Fig. 3 Changes in temperature, pH, electrical conductivity, main chemical component concentration and CO₂/Re (evaporation residue) concentration ratio at the SHV borehole.